

令和 7 年度

岡崎市地域交流センター 業務報告書

施設名称	岡崎市北部地域交流センター・なごみん 岡崎市南部地域交流センター・よりなん 岡崎市西部地域交流センター・やはぎかん 岡崎市東部地域交流センター・むらさきかん 岡崎市地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里
施設の設置目的、役割	市民活動を活性化させることにより市民相互の交流を促進し、活力に満ちた地域社会の実現に寄与する施設。
施設の所在地	(北 部) 岡崎市西蔵前町字季平 45 番地 1 (南 部) 岡崎市上地二丁目 39 番地 1 (西 部) 岡崎市矢作町尊所 45 番地 1 (東 部) 岡崎市藤川町字田中 19 番地 (六ツ美) 岡崎市中島町字上丸ノ内 7 番地 4
施設規模	(北 部) 敷地 4670.30 m ² 駐車場 98 台 (岩津支所含む) 建物 R C 造 3 階建て 2194.47 m ² のうち 1793.20 m ² (岩津支所含む) (南 部) 敷地 4317.00 m ² 駐車場 86 台 建物 R C 造 2 階建て 1609.06 m ² (西 部) 敷地 5087.47 m ² 駐車場 101 台 (矢作支所含む) 建物 R C 造 3 階建て 2531.94 m ² (矢作支所含む) (東 部) 敷地 5412.32 m ² 駐車場 85 台 建物 R C 造 2 階建て 2166.18 m ² (六ツ美) 敷地 6857.61 m ² 駐車場 65 台 建物 R C 造平屋建て 1495.18 m ²
指定管理者	名 称：特定非営利活動法人岡崎まち育てセンター・りた 所在地：岡崎市梅園町三丁目 6 - 6 代表者：理事長 築瀬 鈴憲
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで



特定非営利活動法人

岡崎まち育てセンター・りた

目次

- 第1 市民活動の活性化と市民交流の促進に関する業務
 - 1 市民活動に関する情報収集及び情報提供
 - (1) 市民活動に関する資料の収集、整理、揭示、配架及び配布
 - (2) 地域交流センターホームページにおける市民活動情報の発信
 - (3) 市民活動団体紹介ホームページ（おかざき市民活動情報ひろば）の更新と管理
 - (4) 公益活動統合サイト「おかざき公益ナビ」
 - 2 市民活動に関する研修及び交流事業の企画立案
 - (1) 市民活動の支援や推進に係る研修
 - (2) 市民活動団体の連携の推進及び強化につながる交流事業
 - 3 市民活動に関する相談対応
 - 4 地域の市民活動の活性化に寄与する事業
 - (1) 地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業
 - (2) 周年記念事業
 - (3) 情報誌の発行及び配布
 - (4) 施設ボランティア・環境演出事業
- 第2 施設の運営に関する業務
 - 1 利用者対応業務
 - 2 施設等貸出し業務
 - 3 使用料等収受業務
 - 4 広報業務
 - 5 その他包括的運営に関すること
 - (1) 非常時の対応
 - (2) 飲料等の提供に関する業務
 - (3) その他包括的運営に関すること
- 第3 施設及び設備等の維持管理に関する業務
 - 1 保守管理及び環境維持管理業務
 - 2 駐車場及び駐輪場管理業務
 - 3 中長期修繕計画作成業務
- 第4 その他の業務
 - 1 人材育成研修
 - 2 市民意見の聴取及びその検討
 - (1) 運営懇談会
 - (2) 私の意見箱
 - (3) 利用者アンケート
 - (4) アウトリーチ
- 第5 管理運営上の目標
 - 1 利用者数
 - 2 ボランティアマッチング数
 - 3 事業への参加・協力団体数
 - 4 アウトリーチ
- 第6 収支状況
 - 1 収支状況
 - 2 収支状況に関する自己評価

第7 自主事業

第8 総括（事業全体に対する自己評価）

第1 市民活動の活性化と市民交流の促進に関する業務

1 市民活動に関する情報収集及び情報提供

(1) 市民活動に関する資料の収集、整理、掲示、配架及び配布

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

各地域交流センターにおいて、市民活動に関する催しや助成金・補助金などの資料、市民活動団体の活動紹介チラシ、活動紹介の新聞記事を館内掲示した。また、地域交流センターを定期的に利用している団体の活動情報一覧表を作成して配架するなど市民活動の啓発を行った。

(2) 地域交流センターホームページにおける市民活動情報の発信

地域交流センターホームページでは、市民活動団体向けのイベントや講座、助成金などの各種案内やメールマガジンの登録、市民活動に関連するボランティア情報などを継続的に発信した。

SNS の活用では、facebook とインスタグラムを併用して運用。それぞれ利用者層が異なるため、双方の利用者に対して広く地域交流センター・市民活動センターの情報発信を行った。

(3) 市民活動団体紹介ホームページ（おかざき市民活動情報ひろば）の更新と管理

市民活動センターと連携し、市民活動団体紹介ホームページの更新や管理、市民活動団体で更新方法が分からない団体へのサポートを行った。

同サイトの利用に関しては、フォローが必要な市民活動団体が多く、12月9日よりなにて市民活動サポート研修「市民活動情報ひろば活用講座」を実施し、活用促進を図るとともに、その後のアフターフォローを継続的に実施した。また、研修で使用したマニュアルを他センターにも展開することで、利用者に適切なアドバイスができる環境を整えた。

(4) 公益活動統合サイト「おかざき公益ナビ」

地域課題の解決につながる市民自治や協働について市民の意識を高めることを目的に、市民や市民活動団体、事業者、教育機関などによる公益活動や協働事例の好事例を紹介するサイトを運用し、広く公益活動の啓発を行った。令和8年3月末時点で30記事を掲載。令和7年度の掲載記事は下記の通り。

- ・4月：岡崎に空襲があったことを忘れてはならない【岡崎空襲の記録・保管、語り部、平和への祈り】（岡崎空襲を記録する会）
- ・5月：国籍関係なく、互いを理解し受け入れられる社会の実現をめざして【多文化共生支援事業】（一般社団法人 ViVarsity）
- ・6月：地域福祉を支える食の架け橋【フードバンク事業】（認定 NPO 法人葵風）
- ・7月：身近な鳥の魅力にふれる！【探鳥会】（岡崎野鳥の会）
- ・8月：郷土の誇り【「長瀬八幡宮」を守りたい！】（長瀬八幡宮見守る会）

住みよい地域づくりをめざして【ひだまりサロン】（島坂かのりクラブ）

- ・ 9 月：旧千万町小学校跡地を利用した【ふるさとづくり】（千万町・木下ふるさとづくり委員会）
- ・ 10 月：聴き方次第で良い話し相手になる【傾聴ボランティア活動】（おかざき傾聴の会）
- ・ 11 月：処分ゼロ、共に生きる未来を目指して【動物愛護保護活動】（動物愛護保護団体 ワンワンレスキューコネクト）
- ・ 12 月：楽しく防災を学ぼう【防災クエスト】（株式会社 Quiet）
- ・ 1 月：人とまちをつなぐシェアカー【ゆるくる】（NPO 法人コネクトスポット）
- ・ 2 月：絵本がつなぐ、子ども・学生・地域の輪【学生による地域密着型の読み聞かせボランティア】（読み聞かせサークル Hobbit）

2 市民活動に関する研修及び交流事業の企画立案

（1）市民活動の支援や推進に係る研修

市民活動団体向けに、自身の関心や習熟度にあわせて参加できる研修を実施した。令和 7 年度の特徴的な点としては、やはぎかんと悠紀の里が「広報」をテーマに連携し、体系的な学習機会を提供したことで受講者の高評価を得ることができた。

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
市民活動サポート研修 「ひとりじゃない社会をつくる支援のヒント」講座	なごみん	11/15	受講者 22 人(22 団体)、講師 1 人他 ひきこもり、障がい、子育て、介護などのテーマで活動する団体を中心に、講義とグループワークを行った。課題の共有や地域での孤立を防ぐ協働の方法を学び合うことで、団体運営と地域づくり双方に役立つ視点を獲得する場を提供できた。
市民活動サポート研修 「情報ひろば活用講座」	よりなん	12/9	受講者 17 人(10 団体)、講師 2 人、ボランティア 1 人他 「おかざき市民活動情報ひろば」サイトを活用し、団体活動の周知拡大と活性化を目的とした講座を実施した。事前に個別サポートや資料収集を行い、当日は活用団体の事例発表とともに、ログイン方法や写真投稿手順を解説し、理解促進と活用意欲の向上を図った。
市民活動サポート研修 「団体広報のために写真や動画を極めよう①」	やはぎかん	5/24	受講者 11 人(9 団体)、ボランティア 2 人、講師 1 人他 初心者向けに、広報に活かす写真撮影をテーマとした研修を、座学と実践を交えて実施した。団体の活性化や他団体との連携促進、さらには新たな層への情報発信につなげることを目的に、広報に有効な写真技術を学ぶ講座として構成。撮影の基礎的なポイントを習得した上で、協力団体の活動風景を実際に撮影する実践も行った。

市民活動サポート 研修 「団体広報のために写真や動画を極めよう②」	やはぎか ん	9/20	受講者 8 人(5 団体)、ボランティア 2 人、講師1人他 団体の活動活性化や協働促進、既存のターゲット以外への 周知を図るため、動画活用による発信力を実践的に学ぶ講 座を実施。協働促進や新たな層への周知が期待され、参加 者から追加開催希望の声が寄せられるなど高評価を得た。
市民活動サポート 研修 「受援力のススメ ～受援力をミカタ に活動をアップデ ートしよう！～」	むらさきか ん	8/23	受講者 18 人(8 団体)、講師 5 名他 市民活動の活性化を目的に、ボランティアを受け入れる「受 援力」を学ぶ研修を実施。活動を通じて、つながりを生み出 すための配慮や、自団体における受け入れの工夫点、実践 に役立つ具体的なヒントを得る機会となった。
市民活動サポート 研修 「IT 利活用研修 ①」	悠紀の里	6/28	受講者 20 人(11 団体) 「AI 編」として、広報の基本を学びたい団体を対象に実施。AI の仕組みや活用のポイントを学び、生成 AI を使って団体紹 介文や参加募集の文章を実際に作成した。参加者の理解度 に応じた丁寧な説明と成果物を得た達成感が好評を得た。
市民活動サポート 研修 「IT 利活用研修 ②」	悠紀の里	7/26	受講者 25 人(13 団体)他 デザイン初心者でも簡単に操作できる「Canva」の基本操作 や活用事例を学ぶ研修を実施。実践演習によって目を引く チラシができ、団体の情報発信力を高め、認知度向上や参 加促進につながった。

(2) 市民活動団体の連携の推進及び強化につながる交流事業

市民活動団体が取り組む様々な社会課題の中からテーマを定め、多様な主体が集まり交
流や意見交換をすることで、新たなつながりの創出や既存の連携体制の強化につながる機
会づくりとして実施した。

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
『地域資源再発 見！』まちづくり講 座	なごみん	2/14	来場者 35 人(18 団体)、出展者 10 人(20 団体)他 地域の魅力と課題を共有することを目的に、まちの魅力を出 し合うワークショップを開催した。地域団体や住民が参加し、 歴史・史跡、防災、子育ての視点から地域資源や課題を出し 合い、地域マップに落とし込んだ。多様な主体が交流しながら 地域情報を共有することで、地域資源の再発見と可視化が 進み、今後の地域づくりへつながる基盤が形成された。
みんなとつながるコ ラボフェス	よりなん	5/31	来場者 79 人、出展団体 46 人(17 団体)、ボランティア 1 人 市民活動団体と地縁団体・事業者との協働を促進するため の交流イベントを開催。第 1 部では、団体が活動内容やつな がりたい相手を紹介し、一般参加者との交流を通じて関心を 高めた。第 2 部では、出展団体同士が名刺やチラシなどを交 換し、情報共有やマッチングにつながる関係づくりを図った。

まちから学ぼう！ 市民活動×夏の 宿題ヒントフェス	やはぎか ん	7/19	来場者 100 人、出展団体 48 人(17 団体)、ボランティア 3 人他 自由研究をテーマに、団体活動の担い手発掘や活動 PR を目的に、小学生を対象とした地域課題や歴史、環境などに興味を持つきっかけ作りの場をつくり、市民活動を広げる機会を提供した。実行委員会を立ち上げ、団体同士の交流・連携の機会も提供できた。
防災フェーズフリー ってナニ？	むらさきか ん	1/24	来場者 29 人、出演者 7 人(2 団体)、講師 4 人他 防災課による講義、事例紹介及びグループワークを通じて、日常活動を災害時に活かす視点を共有した。地域と団体など 6 件のマッチングが生まれ、団体間連携の具体的な動きも生まれた。アンケートでは満足度 93%以上、今後に役立つ 96%と高評価を得ており、地域全体の防災力向上に向けた協働の基盤形成につながった。
ゆきファミリーパー ク	悠紀の里	10/19	一般来場者 710 人、出展者 98 人(20 団体)、ボランティア 15 人(うち出店者兼 14 人)他 子育て支援団体や大学と協働し、子育て世代向けの体験企画や作品展示、福祉施設による販売ブースを集めたイベントを開催した。団体間の連携強化を目的に事前交流会や共同制作日を設け、来場者には団体紹介冊子を配布し、活動 PR を図った。

3 市民活動に関する相談対応

窓口で対応するすべての職員を市民協働コーディネーターとすることで、施設開館時すべての時間帯で相談を受けられる体制を整えた。また、「活動相談メニュー」を窓口に掲示したり、地域交流センターホームページにも掲載をしたりすることで、活用の啓発を行った。全センターで受け付けた相談内容の内訳は下表のとおり。

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度 小計
市民活動団体登録	0	0	1	2	1	1	0	2	1	0	2	0	10
団体紹介	4	4	5	4	3	5	5	4	4	3	1	3	45
運営相談	5	4	1	4	3	4	4	2	2	4	1	4	38
ボランティア	0	2	2	1	1	1	2	0	0	6	1	0	16
助成金	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
その他	2	2	2	3	3	1	0	0	2	3	3	0	21
全センター合計	11	12	11	14	11	14	11	8	9	16	8	7	132

※「その他」には内訳に記す項目のうち相談内容が複数にわたるものもカウントしている。

4 地域の市民活動の活性化に寄与する事業

(1) 地域と連携した市民活動の活性化に寄与する事業

町内会等の地縁組織、地域活動団体、事業者等と協働し、市民活動の活性化に寄与する事業を実施した。従来の市民活動団体同士の連携に加え、多様な主体の参画を促進したこ

とで、協働の範囲が拡大し、今後の連携創出ならびに地域の発展や課題解決につながる基盤を形成した。

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
聾学校×地域 協働創出事業	なごみん	7/31	来場者 46 人(3 団体)、ボランティア 16 人他 市民活動団体「ビランチャヨガ」及び岡崎聾学校と協働し、ヨガ体験と共に手話や筆談を用いた多様な交流の場を提供した。参加希望者が多く席を増やすほどの反響があり、聾学校生との真剣な対話が印象的だった。岡崎東高校 JRC 部も加わり、世代や背景を超えた交流の機会となった。
こどものまち「なごみん横丁」	なごみん	8/5.6.7	来場者 731 人、ボランティア 177 人他 働く体験や出店体験、納税に加え、議会機能やアクセシビリティ対応を通じて、まちの仕組みを学ぶ機会を提供した。参加した子どもたちが主体的に関わり、他者と協働しながら活動する場となった。運営は、学生ボランティアや市民団体、企業と連携。当イベントを卒業した中学生がボランティアで支える側として引き続き参加してくれるケースも増えてきた。
まちの生きがいつくり活動「まちカツ！」	よりなん	10/8～12/13	参加者 83 人(28 団体)他 地域住民の経験やスキルを地域で活かすことで関係づくりを促進し、助け合いや協力しやすい環境を整えるための「まちカツ！」を開催。スタッフによる伴走支援できめ細やかなサポートを行うことで 23 講座の開催に至った。センターPRとともに活動意欲の向上や新たな取組につながられた。
上地学区親子秋祭り連携事業	よりなん	11/16	来場者 370 人、ボランティア 1 人他 上地学区 9 団体とともに、秋祭りを通して学区民に地域交流センターの役割や活動を周知する機会となった。クイズや工作を通して楽しく伝える場となり、学区 9 団体との信頼関係構築にもつながる機会となった。
花のとう支援事業	やはぎかん	5/11	来場者 690 人、出展者 19 人(3 団体)、ボランティア 11 人 「花のとう」紹介ブースでは伝統文化や地域資源を紹介し、防災トイレ体験や市民団体の展示もあわせて実施。展示では来館者の関心が高まり、防災啓発や地域課題に関するアンケートも行った。これをきっかけに OK フードバンクや他イベントとの連携が進み、地域防災や協働の新たな展開につながった。
防災交流会	やはぎかん	11/23	来場者 36 人(6 団体)、講師 7 人他 より充実した防災訓練の開催を目的に、矢作 4 学区による防災訓練、岩津防災キャンプ、他自治体の防災訓練事例を紹介。それらの事例を踏まえ、各テーブルで「自学区の訓練に活かすには？」をテーマに意見交換を行うことで、自助・共助の意識を高め、交流と連携を図ることができた。

歴史街道を歩いてみよう！「むらさき麦まつり」～市民活動博覧会	むらさきかん	5/17	来場者 1,441 人(まち歩き 17 人含む)、出展者 38 人(21 団体)、ボランティア 8 人他 まち歩きを通じて地域の歴史や文化に触れ、藤川宿への愛着や市民活動への関心を高める機会を創出した。まち歩きでは、館内でのバーチャルまち歩き後に実際の現場を見たことが好評を得た。館内では 21 団体が出展し、活動の体験や展示、バザーを実施し市民活動の啓発を行った。
むつみ地域交流会	悠紀の里	12/5	来場者 42 人(12 団体)、出展者 28 人(14 団体)他 2 つの地域包括支援センターと協働し、六ツ美 4 学区の地域活性化や連携強化を目的に「地域イベントの企画」をテーマにした交流会を開催した。市民活動団体や企業が活動紹介ブースを設け、マッチングの機会を提供するとともに、学区相互に今後の活動について情報共有することができ、実際の活動に役立てる兆しが見られた。

(2) 周年記念事業

なごみんにおいて、開館 20 周年の記念事業を開催した。

事業名	実施場所	実施日	内容・成果
開館 20 周年記念事業	なごみん	4/27	参加者数：一般来場者 1,102 人、出展者 178 人(48 団体)、ボランティア 25 人 開館 20 周年を記念し、地域住民や利用者にあらためてセンターの役割を知ってもらうためのイベントを開催した。活動団体による体験・展示・販売ブースを設け、市民に活動を PR したことで今後の活動への関心につながった。日頃から関わる団体や初参加の団体、来場者、ボランティアが一体となって創り上げた催しとなった。

(3) 情報誌の発行及び配布

市民活動の促進につながる有益な情報や市民活動団体の活動 PR 等の情報をまとめた情報誌「まちのワ！」を 2 か月に 1 回、奇数月に発行。市内全町への回覧に加え、市役所、支所、市民センター、小中学校、その他市内外の NPO 法人や市民活動支援センターへ配布、さらにセンターホームページ上での公開など広く情報を発信した。

1 回あたり約 15,000 部発行。年 6 回発行により、年間で約 90,000 部発行。

- ・ 5 月号 特集：市民活動の拠点として歩み続けて 20 周年！
- ・ 7 月号 特集：六ツ美の歴史案内人「悠紀の里サポーター会」
- ・ 9 月号 特集：防災意識をアップデート！
- ・ 11 月号 特集：聴くことで社会貢献 お話し相手ボランティア
- ・ 1 月号 特集：絵本を通して信じて待つ子育て
- ・ 3 月号 特集：輝く未来を目指せ！盤上から始める世代交流

(4) 施設ボランティア・環境演出事業

各センターにおいて花壇整備や館内装飾等を行い、市民がボランティアで施設運営に参画する「ふれあいひろば」を実施した。悠紀の里では、NPO 法人おかざき農遊会と協働し地域の特産である法性寺ネギを栽培し、育成の過程でボランティアとして関われる市民参加型の取組とした。また、交流スペースでは、活動団体によるマジックや音楽演奏等のサロンを実施。来館者との交流の場として活用されており、市民参画によるあたたかみのある環境演出につながっている。

ボランティア数の状況は、後述の「第5 管理運営上の目標」に記載する。

第2 施設の運営に関する業務

1 利用者対応業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。特徴的なものは、下記の通り。

- ・利用者の利便性向上のため、センターの交流スペースにフリーWi-Fiを設置し運用した。
- ・利用者が理解しやすい対応を行うために、情報提供用のタブレット端末を各センターの窓口に配備し活用した。利用者が施設予約システムの市民画面（ネット予約）やおかざき市民活動情報ひろばを閲覧したり、センターの活動室や設備の写真を見られることに加え、岡崎商業高校の生徒が作成した市民活動団体紹介ムービーの放映も行い、市民活動の啓発を行った。
- ・施設内の案内表示や利用ルール（簡易版）などの外国語表記を、市民活動団体や施設利用者に協力してもらって作成したり、岡崎市障がい者福祉団体連合会と協働してバリアフリー情報を発信、男性用トイレにもサニタリーボックスを設置するなど、多様性を尊重した取り組みを実施した。
- ・氷や経口補水液を常備する熱中症対策に加え、消毒設置による感染症対策も講じ、安心して利用できる施設運営を行った。

2 施設等貸出し業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

3 使用料等収受業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

4 広報業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

ホームページに加えて、情報をタイムリーに発信できるインスタグラムも運用している。インスタグラムはfacebookともリンクできるため、その機能を活用してより広く効率的に情報発信を行った。

5 その他包括的運営に関すること

(1) 非常時の対応

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

大規模災害が発生し施設の被害状況の確認が必要になった場合に備え、第1担当・第2担当を現実に即した配置に設定し、さらに現場到着後の行動マニュアルや被害状況確認のチェックリストを整備したことで、円滑な状況把握ならびに報告ができる体制を整備した。

(2) 飲料等の提供に関する業務

管理運営計画書に記載の通り、各センターに自動販売機を1台ずつ設置している。また、各センターで菓子の設置スペースを設け、公益活動団体（福祉事業所・就労支援施設など）が製造・販売している菓子を提供した。

(3) その他包括的運営に関すること

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

第3 施設及び設備等の維持管理に関する業務

1 保守管理及び環境維持管理業務

管理運営計画書に記載のとおり、実施した。

2 駐車場及び駐輪場管理業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

3 中長期修繕計画作成業務

管理運営計画書に記載の通り、実施した。

第4 その他の業務

1 人材育成研修

窓口業務に携わる職員に対し、市民協働コーディネーターならびに施設管理者としての資質を備えられるよう、人材育成研修を実施した。新人研修では、施設概要や市民活動・ボランティアに関することに加え、ハラスメントやコンプライアンス、救命救急講習など、実践的なプログラムも実施した。

2 市民意見の聴取及びその検討

(1) 運営懇談会

市民活動団体や地縁組織等に対し、地域交流センターの取組や機能を紹介し、相談機能活用や今後の連携強化に向けた意見交換の場として実施した。

センター名	開催日	参加人数（運営側除く）
-------	-----	-------------

なごみん	7月17日	12人（総代会6人、活動団体5人、行政1人）
よりなん	7月23日	6人（総代会2人、活動団体4人）
やはぎかん	7月3日	16人（総代会4人、活動団体7人、事業者4人、行政1人）
むらさきかん	7月24日	9人（総代会3人、活動団体2人、事業者1人、行政3人）
悠紀の里	7月11日	13人（総代会4人、活動団体4人、事業者2人、行政3人）

（２）私の意見箱

各センターにて、利用者が投書できる意見箱を設置している。また、地域交流センターホームページにも意見や問合せができるページを用意し、気軽に質問や相談ができる環境を整え対応した。1年間で意見箱に7件、ホームページ経由で12件の投稿があった。内訳は、連携・マッチング希望3件、要望8件、問合せ8件だった。

センター名	分類	投書内容	回答
なごみん	ホームページ	なごみんのプレイルームの保育士を募集していますか。今、働いておらず求職中です。	保育士に確認し、現在なごみんでの募集はないこと、詳細は岡崎市の保育士・保育所支援センターで確認できる旨を返信。所在地や連絡先の公開情報もお知らせした。
よりなん	私の意見箱	交流スペースの生け花の展示について。背景が騒がしく、作品が生かされていない。無地の衝立や壁際の落ち着いた空間での展示を推奨する。	生け花を生けてくれている方に相談したが今のままで問題ないとのこと。また、よりなんは子どもが多く安全面で衝立の設置が難しく、落ち着いた空間も確保できない旨を返答。
やはぎかん	私の意見箱	久しぶりにやはぎかんカフェを利用したが値上がりしていた。利用者の為に安くしてほしい。	お詫びとともに仕入値の高騰により、4月より値上げをした旨を返答。
	私の意見箱	（上記投稿者と同じ方）やはぎかんカフェを利用したが以前と同様に安くしてほしい。	仕入れ値高騰による値上げは全地域交流センターで統一して行っており、元の金額に戻すことは難しい旨を返答。
	ホームページ	ホールのグランドピアノのメーカーと品種を知りたいです。	品番を返信。
やはぎかん ほか	ホームページ	私は、鍼灸師、按摩マッサージ指圧師、カイロプロテクター、整体師です。やはぎかん又は他の交流センターにて、自身の姿勢を見直す、骨盤調整体験や骨盤体操、姿勢のAI診断などのイベントを開催したいです。何かのイベントの時に一緒に参加させていただけるような機会を探しています。お子様と親子体験でも結構です。	事業の開催趣旨と合致する場合は、ご一緒できる可能性がある旨を返信。加えて、まちびとステージの活用も勧めた。
むらさきかん	私の意見箱	交流スペースの席数が少なく、学習利用できる席も少ない。数を増やして欲しい。（同意見で2件）	施設の目的により学習利用できる席が限られている旨、利用状況に合わせて数を増やす事を検討する旨を返答。

	私の意見箱	活動室でフリーWi-Fi が使えるようにして欲しい。(2件)	すぐに対応することは難しいが今後、検討していく旨を回答。
	私の意見箱	勉強で出る消しカスを捨てる簡易的なゴミ箱があると助かる(交流スペース利用者)	窓口にて消しカス用のくず入れを用意している旨を返答。
	ホームページ	駐車場に街灯をつけて欲しいです。6/20 20時半ごろまで施設を利用し駐車場から出ようとしたところ、走ってきた女性と事故になりました。死角から女性が飛び出してきたのもありとても危なく感じました。女性は車が動いていることに気づいていない様子でした。たまたま街灯が切れていたのかわかりませんが事故が起こる前に明るくして欲しいです。	外灯は切れていない状態であること、切れていないが全体的に照度が低いことは確かであること、所管課に相談・確認し、今年度末にかけて順次 LED 化を進めていく方針であることを返信。
共通	ホームページ	藤川町にある知的障害施設「藤花荘」の職員です。12/19 にクリスマス会を企画しており、歌や演奏、踊りのボランティアを依頼したく、紹介していただけますか。	まちびとステージ(機会のマッチング)ならびに窓口での団体紹介が可能な旨を返信。
	ホームページ	特技の変面と中国健康法(太極拳、健康気功、ツボたたき、中国式エアロビクス、中国体操、中国ストレッチ等)を必要とされる方や施設に生かしたい。岡崎市でこのようなボランティアができる機会があれば、ボランティア登録したい。	まちびとステージ(機会のマッチング)の仕組みならびに登録方法を返信した。
	ホームページ	むらさきかんややはぎかんなどに自習室はありますか？りぶらが一週間閉鎖されるので他にないか探しています。	「自習室」はないが「交流スペース」での勉強は可能である旨を、利用ルールとあわせて返信。
	ホームページ	2/11AM、活動室 A か B を使用したいです。手続きはどのようにしたらいいですか？	利用者登録の流れの説明に加え、あいち共同利用型施設予約システムを紹介。
	ホームページ	交流スペースで学習したいのですが時間制限などありますか？	交流スペースの利用ルールを返信。
	ホームページ	7/26 に第 6 活動室または第 1 活動室の終日利用、または午後 5 時までの利用が可能でしょうか。また、これらの施設を誕生日のお祝いに使用することは可能でしょうか。	該当施設(よりなん、むらさきかん)の予約状況、ならびに誕生日会での利用は可能である旨を返信。
	ホームページ	福祉事業を行なっていますが、令和 7 年 7 月より事業所の 2 階で民間学童を開設します。児童募集やボランティア募集のチラシや情報など載せることはできますか。	岡崎市または岡崎市教育委員会の後援があるチラシは配架が可能である旨、全センターで同じ配架基準である旨を返信。
	ホームページ	岡崎市が推進する住宅用再エネ設備導入の重点加速化補助金を活用して、地域の皆さまの暮らしをより快適で、安心・安全にするお手伝いをしています。(中略)この制度を、市民の皆さまにもっと身近に、	岡崎市または岡崎市教育委員会の後援があるチラシは配架が可能である旨、ギャラリースペースにて販促を伴わない啓発展示は可能である旨、セミナーは有料の

		わかりやすくお届けしたく、施設のスペースや掲示板をお借りして、わかりやすく解説するセミナーや勉強会、チラシ設置などは可能でしょうか。	活動室を利用してほしい旨を返信。
--	--	--	------------------

(3) 利用者アンケート

12月に利用者アンケートを実施した。貸館利用者に限らず、印刷室やプレイルーム、交流スペース等を利用している人を対象に行い、全体で620件の回答を得られた。全体を通して運営に対する評価としては、概ね好評を得られ、適切な施設運営ができていたことが読み取れた。

(4) アウトリーチ

アウトリーチの実績は、後述の「第5 管理運営上の目標」に記載する。

第5 管理運営上の目標

1 利用者数

利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	8,493	6,583	5,567	7,861	9,999	6,556	6,576	6,043	6,482	6,408	7,022	7,308	84,898	74,000
よりなん	8,691	8,220	8,491	9,639	8,844	9,352	9,042	8,440	8,340	9,035	8,184	10,320	106,598	95,000
やはぎかん	7,451	9,647	7,325	8,528	7,632	7,324	8,702	11,293	8,334	7,154	7,985	8,017	99,392	92,000
むらさきかん	7,390	8,800	9,060	8,757	7,577	7,181	8,619	8,080	7,211	5,990	6,691	8,027	93,383	91,000
悠紀の里	7,255	8,042	9,827	9,934	7,924	7,359	8,897	7,587	7,228	6,385	7,027	7,501	94,966	78,000
合計	39,280	41,292	40,270	44,719	41,976	37,772	41,836	41,443	37,595	34,972	36,909	41,173	479,237	430,000

達成率： 111%

昨年度と比較して約30,000人増加し目標数値を達成できた。増加の要因は交流スペースならびにプレイルームの利用者数の増加によるもので、居心地のいい適切な環境を提供できていることが数字につながっていると考えられる。

2 ボランティアマッチング数

ボランティア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	139	44	51	116	209	99	90	56	137	78	185	93	1,297	1,200
よりなん	239	122	437	127	349	193	126	28	24	14	50	35	1,744	1,600
やはぎかん	199	157	326	312	187	166	140	54	25	33	26	21	1,646	1,400
むらさきかん	72	91	28	356	27	17	123	33	95	17	8	65	932	900
悠紀の里	166	10	90	107	38	29	75	18	119	21	128	110	911	900
合計	815	424	932	1,018	810	504	554	189	400	163	397	324	6,530	6,000

達成率： 109%

まちびとバンクを活用し、施設ボランティア（ふれあいひろば事業）の募集を実施した。市民参加型の館内装飾プログラムでは、プレイルーム利用の親子や交流スペースの学生などが気軽に参加し、マッチング数の増加につながった。これにより窓口スタッフと来館者の接点が増え、関係構築の機会となっている。また、提案事業で参加者に向けてまちびとバンクの周知を行ったことで、地域活動へのボランティア紹介にもつながり、年間目標6,000人という目標を上回る実績となった。

さらに、「まちびとステージ」として特技を活かす機会の創出に取り組み、年間 37 件の機会を求める依頼に対し、高齢者施設や子ども会、老人クラブ等への派遣を中心に、全センターで 124 件のマッチングができた。これらの取組により、センター内外における活動機会の創出とボランティア活動の活性化につながっている。

3 事業への参加・協力団体数

参加・協力団体	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			合計	年目標
センター名	協力	参加	出展	協力	参加	出展	協力	参加	出展	協力	参加	出展		
なごみん			48	8	3	7	1	22			18	7	114	50
よりなん	2		17				4	38					61	50
やはぎかん	7	9	3		5	17	1	6	7				55	50
むらさきかん	2		19	5	8					5	21	2	62	50
悠紀の里		11			13		3	12	34				73	50
合計	11	20	87	13	29	24	9	78	41	5	39	9	365	250

凡例：[協力] 事業の企画段階から協力、協働関係をもって関わった場合／[参加] 事業当日に参加した場合／
[出展] 事業当日にブースや発表などを行った場合

各センターが開催する事業において、市民活動団体や事業者等に関わってもらい目標数値として設定した年間 50 という数値を大きく達成することができた。特になごみんの周年事業では 48 団体がイベントと一緒に盛り上げてくれ、周年イベントが多く主体と関わりを持てる機会であることを再認識した。むらさきかんの「防災フェーズフリーってナニ？」では企画内容への関心が高く満席となり、防災関係団体に加え地縁組織に属する参加者が加わり、数字を伸ばすことができた。

4 アウトリーチ

アウトリーチ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年目標
なごみん	2	5	8	3	3	1	2	1	1	8	1	2	37	24
よりなん	0	2	8	5	0	0	0	2	3	1	3	0	24	24
やはぎかん	6	3	5	1	5	0	0	1	1	1	1	0	24	24
むらさきかん	5	8	1	3	0	1	6	2	3	1	1	0	31	24
悠紀の里	8	2	0	7	1	1	2	3	3	1	1	3	32	24
合計	21	20	22	19	9	3	10	9	11	12	7	5	148	120

達成率： 123%

地域内の事業者や学校、NPO 等に、ニーズ調査や交流センターの活用促進 PR、事業での協力体制の模索等のヒアリングを行い、年目標を達成した。アウトリーチにより、有益な情報収集ができた（活動状況や課題意識、支援のニーズ等）：88 件、センター PR ができた：62 件、センター事業への参画につながった：64 件、他団体を紹介またはマッチングできた：8 件という成果が得られた。情報を分析し、今後のマッチングや実施事業・支援策の構築へ活用していく。

第 6 収支状況

1 収支状況

令和 7 年度の収支状況は以下の通り。

項目	内 訳	決算額（円）
----	-----	--------

収 入	委託料収入	指定管理料	179,410,000
	利用料金収入		0
	事業収入	印刷室サービス料金収入	1,478,430
	その他収入	自動販売機、カフェ等の収入	1,931,161
収入 計			182,819,591
支 出	直接管理運営費	直接人件費、修繕費、清掃等委託料等	147,089,376
	(うち修繕費)	※精算項目	3,995,752
	事業費	直接事業に係る経費	8,641,125
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	27,089,090
支出 計			182,819,591
差 引			0

2 収支状況に関する自己評価

ここ数年で急激に物価が上昇し、運営にかかる消耗品や仕入れにも影響が出ていることから、緊急性の低い消耗品の購入抑制を行うなど、支出の削減に努めた。

直接管理運営費は、最低賃金の上昇などの雇用環境の変化により、職員の人件費だけでなく外部委託料も増加傾向にある。このような状況下で、少しでも外部委託料を減らすために、修繕スタッフによる日々の点検及び補修を行い大規模な修繕を未然に防ぎ経費の削減に努めた。一方で、建物や設備の老朽化による故障の増加に加え、物価や人件費の上昇で発注費用が増加傾向にあることから、修繕費で対応できる件数が減少している。

第7 自主事業

利用者満足度の向上を主な目的として、①消耗品販売、②移動販売車ならびに館内ブース出店の受け入れを行った。①、②ともに一定の需要があり、利用者満足度向上につながられた。

第8 総括（事業全体に対する自己評価）

指定管理期間の4年目である本年度は、物価や人件費が当初想定していた上昇率の倍近くに膨らみ運営に苦慮したものの、令和4年度から始めた取組等の検証・改善・改良を積み重ね、目標数値の達成や提案事業における連携強化、マッチング数のさらなる増加がみられ、安定的に高い水準での施設運営ならびに市民活動支援を継続できていることが分かる年度となった。

地域交流センターでは年間を通して、市民活動団体のマネジメント能力の向上や広報活動のサポート、各種運営の相談対応を行っており、各種相談に適切に対応できるよう、人材育成を行ったり人的ネットワークを充実させたりすることで、市民活動支援の幅や質をいっそう充実させることができた。また、町内会や事業者など多様な主体との連携を促進するために、各所にアウトリーチして情報収集を行ったことで様々なニーズや協働の芽を見つけることができた。これらの情報を活用し、各主体だけでは成しえない創造的な状況を生み出し、市民活動の活性化・定着化に寄与できた。

施設の保守管理及び環境維持管理では、修繕担当職員が定期的に全センターを巡回し、内部で対処できる修繕を行うことで業者への工事発注を必要最小限にとどめられた。具体的にはハンドマイクやラジカセ、ふすまの破れ等の備品・設備の修理、電気系統の不具合修理、トイレや水道の排水改善など多岐にわたり、修繕費の削減につながられている。

一方で、施設の老朽化により空調機器の故障が頻発し、また人件費や部品調達コストの上昇から1件あたりの修理代が高騰し、修繕費を圧迫している。そのような中でも緊急性を判断し優先的に修繕できるように調整するなどし、利用者への影響を最小限に抑えることができた。

提案事業では、第3期市民協働推進計画（発展期）に則り、団体の組織力や継続性を高めるために必要な知識やネットワーク、活躍の機会を提供し、運営力のボトムアップにつながられた。特に、特技を活かす場所や機会を募集しマッチングする「まちびとステージ」では、これまで共益に近かった団体が同機能の活用により、市民に開かれた活動に発展する事例も見られ、市民活動の活性化・定着化につながった。各センターで開催した「市民活動サポート研修」では、市民活動を実践する上で欠かせないマネジメントやボランティア運営の基礎から、生成AIの活用という時代の流れを汲んだ研修を開催し、団体が継続・発展的に活動していく力を育んだ。また、「アウトリーチ」などを通じて把握した地域課題や特性、ニーズに合わせ、子育て・防災・環境・ボランティア・地域活動・市民活動のマッチングといった多様なテーマの交流事業や地域連携事業を展開することで、市民活動団体をはじめ町内会や事業者、学校など、年間を通じて実に365もの多様な主体の参加や協働を実現することができた。本年度に初開催をした「市民活動×夏の宿題ヒントフェス」や「防災フェーズフリーってナニ？」「まちの生きがいがいづくり活動『まちカツ』」などは、その最たる事業である。またなごみんでは、開館20周年記念事業として「なごみんフェスタ」を開催し、多数の地域団体や市民活動団体、企業などの出展と連携を実現し、市民に対して市民活動を体感してもらえるよい機会となった。これらの事業を通してつながった団体同士が、当該事業以外のところでも新たな連携を生みだしているケースもある。引き続き、市内の5エリアに地域交流センターがあるという特徴を活かして、事業を実施していきたい。